

資料・統計

2012年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2012

新潟県立がんセンター新潟病院

中央手術部

1. 消化器外科

胃		食道癌	48
胃癌	316	右開胸	33
Staging laparoscopy	42	胸腔鏡下	7
切除		左開胸	2
全摘	73	開腹	1
残胃全摘	11	咽喉食道全摘	1
噴門側切除	5	遊離空腸移植	0
幽門側切除（開腹）	97	食道抜去	0
幽門側切除（腹腔鏡下）	16	試験開胸	2
PPG	31	頸部リンパ節郭清	0
分節切除	0	腹部リンパ節郭清	0
SSD・部分切除	3	食道切除後2次の再建術	2
非切除		バイパス術	0
単開腹	0	胃管癌	3
バイパス	0	胃管全切除（胸骨縦切開）	2
その他	4	胃管部分切除	1
再発		特発性食道破裂	1
肝転移切除	3	肝胆膵	197
卵巣転移切除	2	肝腫瘍	
リンパ節郭清	1	肝細胞癌	11
局所切除	2	肝内胆管癌	4
腸切除	0	転移性肝癌	18
バイパス	0	その他肝腫瘍	2
人工肛門造設	0	胆道癌	
イレウス		十二指腸乳頭部癌	9
癒着剥離	6	胆嚢癌	7
腸切除	0	胆管癌	26
バイパス	0	膵臓疾患	
人工肛門造設	1	膵臓癌	38
胃瘻・空腸瘻	0	IPMC	1
非上皮性腫瘍		IPMA	3
GIST	6	内分泌腫瘍	2
悪性リンパ腫	0	膵腫瘍	5
その他	3	その他悪性腫瘍十二指腸癌	2
その他	10	GIST	2
食道	53	小腸癌	0
良性腫瘍	0	肝胆膵癌の再発	3
非上皮性腫瘍	1	NHL	6
		その他悪性	11

その他		(腹腔鏡下手術	37)
胆石症・胆嚢ポリープ	26	低位前方切除術	32
汎発性腹膜炎	0	超低位前方切除術	15
ITP	1	前方切除術	13
腸閉塞	1	直腸切断術	8
他科疾患	5	ハルトマン手術	3
その他良性	10	骨盤内臓全摘術	2
術後合併症	4	経肛門的切除術	4
	197	非切除術 (人工肛門造設術)	9
術式		直腸良性	1
膵頭十二指腸切除術	35	再発・転移	41
膵体尾部切除術	10	肝切除術	25
膵全摘	1	腹膜播種腫瘍切除術	5
膵中央切除術	1	骨盤内リンパ節郭清術	3
肝膵同時切除	2	鼠径リンパ節郭清術	3
肝切除	18	低位前方切除術	1
肝門部胆管癌手術	6	腹会陰式直腸切断術	1
胆嚢癌根治術	5	回腸部分切除術	1
胆管癌手術	2	バイパス手術	2
腹腔鏡下胆嚢切除術	15	肝転移	28 (上記原発再発症例に含まれる)
ラジオ波焼灼術	14	異時	25 (上記再発症例に含まれる)
腹腔鏡肝切除術	1	同時	3 (上記原発症例に含まれる)
腹腔鏡下手術	3	その他の手術	66 (内緊急手術 14)
その他悪性腫瘍切除	9	他科癌・他癌	11
開腹胆摘術	6	低位前方切除術	2
総胆管結石石切術	5	超低位前方切除術	1
PTCD/PTAD	19	結腸・小腸部分切除術	1
生検	9	人工肛門造設術	2
その他	36	腸吻合術	3
		直腸修復・剥離術	2
結結腸, 直腸手術症例	305	人工肛門閉鎖術	27
原発	198	洗浄ドレナージ人工肛門造設術	5
結腸悪性	107	腹壁瘻痕ヘルニア	4
(腹腔鏡下手術	54)	腸閉塞手術 (剥離)	4
S状結腸切除術	44	腸閉塞手術 (腸管切除)	1
右半結腸切除術	36	人工肛門造設術	2
横行結腸切除術	7	鼠径ヘルニア修復術	2
回盲部切除術	5	ポリペクトミー	1
右結腸切除術	3	S状結腸切除術	1
左半結腸切除術	2	人工肛門嵌頓	1
横行結腸下行結腸切除術	2	その他の手術	7
下行結腸切除術	1		
上行結腸切除術	1		
結腸部分切除術	1		
大腸亜全摘術	1		
超低位前方切除術	1		
非切除術 (人工肛門造設術)	3		
結腸良性	4		
(腹腔鏡下手術	3)		
直腸悪性	86		

2012年の外科全体 (消化器外科+乳腺外科) の入院手術件数は1286件 (39件増加) で2011年と比べ増加している。消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道:53件 (7件増加)、胃:316件 (5件減少)、結腸:305件 (32件増加)、肝胆膵:197例 (23件減少) であった。鏡視下手術の件数は、食道:7件 (11件減少)、胃:16件 (4件減少)、結腸:94件 (21件増加)、肝胆:19件 (11件増加) であり、鏡視

下手術の総数は昨年と比較して増加しているが、結腸での増加が顕著であった。この数年の傾向としては、集学的治療症例の増加に伴い難易度の高い手術が増加しているようである。周術期成績及び遠隔成績を向上させるように日々の努力が必要である。

(文責 中川 悟)

2. 乳腺外科

外来手術		
乳腺	7	
入院手術		
乳腺		
良性+プローベ	21	
乳癌	336	
Auchincloss	53	} 121
Mastectomy + SLNB	58	
Simple mastectomy	10	
Lumpectomy + Ax	38	} 215
Lumpectomy + SLNB	125	
Lumpectomy	52	
その他		
局所再発 (リンパ節, 創)	2	
温存乳房切除	10	
温存乳房部分切除		
乳房内再発	9	
後出血	0	
その他	4	

2012年の原発性乳癌手術数は336例で、昨年度より8例減少していた。温存療法は約64%に施行されていた。腋窩リンパ節手術を施行した274例のうち、センチネルリンパ節生検 (SLNB) のみで終了できた症例は183例 (約67%) であった。センチネルリンパ節生検に代表される縮小手術はQOLの向上に寄与するため、術前化学療法後の症例などへの適応拡大へむけて臨床試験が組まれている現状である。

(文責 神林智寿子)

3. 呼吸器外科

気管 (支) 疾患	1
気管切開	1
気管支瘻	0
肺疾患	257 (99)
良性肺疾患	8 (2)
炎症性偽腫瘍	3 (1)
非結核性抗酸菌症	2 (1)
肺真菌症	1 (0)
良性肺腫瘍	1 (0)

その他	1 (0)
悪性腫瘍	249 (97)
原発性肺癌	220 (81)
全摘除	1 (0)
肺葉切除	144 (62)
区域切除	44 (7)
部分切除	30 (12)
試験開胸	1 (0)
審査開胸	0
他	0
転移性肺腫瘍	29 (16)
結腸直腸癌肺転移	22 (12)
卵巣	2 (1)
腎癌転移	2 (1)
頭頸部癌転移	2 (1)
食道	1 (1)
乳腺	0
骨軟部腫瘍肺転移	0
肺	0
他	0
縦隔疾患	5 (0)
縦隔腫瘍	5 (0)
胸腫	1 (0)
奇形腫	0
胚細胞性腫瘍	0
神経性腫瘍	1 (0)
胸腺癌	0
胸腺カルシノイド	0
胸腺嚢腫	0
リンパ腫	3
縦隔内甲状腺腫	0
他	0
縦隔鏡検査	0
胸膜疾患	3
術後気漏	1
膿胸	2 (0)
胸膜生検	0
胸膜中皮腫	0
胸壁疾患	4 (0)
原発性悪性腫瘍	2 (0)
転移性悪性腫瘍	1 (0)
良性腫瘍	1 (1)

() 胸腔鏡手術

2012年の手術数は282件で、昨年よりやや増加した。原発性肺癌手術例は6年ぶりに200例以上となった昨年よりさらに増加して220例となり2年連続して200例以上となった。手術死亡例は昨年に続きなかった。

肺癌に対する胸腔鏡補助下 (VATS) 肺葉切除の割合はさらに増加し、昨年の36%から43%がVATSで

行われた。区域切除も比較的容易な部位はVATSで行っている。

JCOGによる2cm以下の肺癌に対する区域切除と肺葉切除の第III相比較試験 (JCOG0802) にも積極的に参加し登録数は全国のベスト3をキープしている。
(文責 吉谷克雄)

4. 整形外科

腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	108
生検	3
良性軟部腫瘍	計 111

良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	20
切除+人工関節	1
生検	4
良性骨腫瘍	計 25

悪性軟部腫瘍	
広範切除	10
広範切除+皮弁など再建	7
辺縁切除 (術後照射, 化学療法併用)	5
その他	1
生検	10
悪性軟部腫瘍	計 33

悪性骨腫瘍	
広範切除	2
広範切除+人工関節・人工骨頭	2
切除	0
生検	3
悪性骨腫瘍	計 7

転移性腫瘍・脊椎転移性腫瘍	
除圧・後方固定	1
髄内釘・ピンニング	5
切断	2
広範切除+再建	2
人工骨頭置換術	5
切除・生検	11
転移性腫瘍	計 26

非腫瘍性疾患

腫瘍性疾患	計 202
-------	-------

脊椎疾患	
腰部脊柱管狭窄	0

腰椎椎間板ヘルニア	0
脊椎疾患	計 0

股関節疾患

人工股関節置換術	4
人工股関節再置換術	1
人工骨頭置換術	5
股関節疾患	計 10

膝関節疾患

人工膝関節置換術	5
人工膝関節再置換術	1
膝関節固定	0
膝関節疾患	計 6

肩・肘・手関節疾患

腱鞘切開	8
手根管開放術	3
滑膜切除	4
腱移行・腱移植・腱剥離	4
人工肩関節置換術	1
神経移行, 剥離	6
肩・肘・手関節疾患	計 26

足・足関節疾患

人工関節	1
外反母趾矯正	1
関節固定術	2
足・足関節疾患	計 4

その他

骨接合術	13
デブリードマン	31
抜釘・異物除去	7
その他	22
その他	計 73

非腫瘍性疾患	計 119
--------	-------

総合	計 321
----	-------

総手術件数に対する腫瘍性疾患の比率は62.9%であった。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍67.3%, 悪性骨軟部腫瘍19.8%, 転移性腫瘍12.9%であった。

(文責 有泉高志)

5. 脳神経外科

総手術件数	66
腫瘍摘出術	34

悪性腫瘍	26	
良性腫瘍	8	
脳血管障害		1
血腫除去術	1	
他	0	
頭部外傷		10
急性頭蓋内血腫	0	
慢性硬膜下血腫	3	
その他		21
オンマイヤー設置	6	
生検術	3	
他	12	

本年度は昨年度よりも手術総数は19例増加しました。

定位的放射線治療が始まってから減少傾向がみられている頭蓋内腫瘍摘出術は34例ありました。ほぼ昨年並みです。悪性脳腫瘍の中でも特に転移性脳腫瘍の摘出術が多く、がんセンター新潟病院での肺癌や乳癌をはじめとする原発治療科の支援科としての役割を担えているものと考えております。

本年は頭蓋内髄膜腫が4例もあり、術前悪性頭蓋骨腫瘍との鑑別の困難な症例でした。ご高齢の患者の手術例も増加しています。

(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+附属器摘出術など)	64	
子宮筋腫	43	
子宮腺筋症	5	
子宮頸部異形成	10	
子宮頸癌	0期	2
	I a1期	1
	I b1期	1
子宮内膜ポリープ		2
腔式子宮全摘出術	4	
子宮頸部異形成	2	
子宮頸癌	0期	2
準広汎子宮全摘出術	8	
子宮頸癌	0期	1
	I a1期	4
	I b1期	2
	I b2期	1
広汎子宮全摘出術	22	
子宮頸癌	I b1期	10
	I b2期	7

	II b期	4
子宮体癌	III a期	1
子宮体癌手術		51
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清)		
(子宮肉腫を含む)		
子宮体癌	I a期	2
	I b期	30
	I c期	2
	II b期	5
	III a期	4
	III c期	6
	IV b期	2

悪性卵巣腫瘍手術 36
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌、腹膜癌を含む)

卵巣癌	I a期	7
	I c期	12
	II b期	2
	II c期	4
	III b期	2
	III c期	7
	IV期	2

子宮頸部円錐切除術 109
子宮頸部異形成 55
子宮頸癌 0期 50
I a1期 3
子宮腺筋腫 1

LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure) 45
子宮頸部異形成 39
子宮頸癌 0期 6

その他の悪性腫瘍手術 25
外陰悪性腫瘍手術 3
原発不明癌 2
再発癌手術 15
試験開腹術 5

附属器摘出術 25
(附属器腫瘍摘出術を含む)

子宮筋腫核出術 17

子宮脱手術 5
腔式子宮全摘出術+腔壁形成術 3
Le Fort手術 2

腹腔鏡下手術	31
良性卵巣腫瘍	29
筋腫核出術	2
<hr/>	
経頸管的切除 (TCR)	12
子宮筋腫	8
子宮内膜ポリープ	4
<hr/>	
子宮内容除去術	11
子宮体癌疑い	10
内膜ポリープ	1
<hr/>	
その他	26
外陰腫瘍摘出術	6
ドレナージ	4
CVポート抜去	10
後腹膜腫瘍摘出術	1
子宮外妊娠手術	1
腔上皮内腫瘍蒸散術	1
腔腫瘍摘出術	1
外陰膿瘍切開術	1
小腸穿孔修復術	1
<hr/>	
計	486

2012年の手術件数は486件であり、前年の539件より若干減少した。325件は悪性腫瘍または関連疾患に対する手術であり、全体の約2/3を占めていた。

(文責 笹川 基)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術	(小計1)
腹腔鏡下副腎摘出術	1
腎腫瘍および腎の手術	(小計84)
根治的腎摘出術	20
腹腔鏡下根治的腎摘出術	2
単純腎摘出術	1
腎部分切除術	28
腹腔鏡補助下小切開腎部分切除術	2
腎腫瘍生検	3
経皮的腎瘻造設術 (PNS)	28
腎盂尿管腫瘍および尿管の手術	(小計134)
腎尿管全摘出術	29
尿管部分切除術	2
尿管カテーテル法 (留置を含む)	95
尿管狭窄拡張術	7
尿管損傷修復術	1
膀胱腫瘍および膀胱の手術	(小計369)
膀胱全摘+回腸導管	13

膀胱全摘+尿管皮膚瘻	3
膀胱全摘+回腸膀胱	1
膀胱部分切除	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	334
膀胱内血腫除去・止血術	9
膀胱損傷修復術	2
その他	4
尿道腫瘍および尿道の手術	(小計12)
尿道全摘出術	2
経尿道的尿道腫瘍切除術	2
内尿道切開術	8
前立腺腫瘍および前立腺の手術	(小計454)
前立腺生検	381
前立腺全摘出術	37
経尿道的前立腺切除術	9
両側精巣摘出術 (去勢術)	26
その他	1
精巣腫瘍の手術	(16件)
高位精巣摘出術	15
後腹膜リンパ節郭清	1
陰茎腫瘍の手術	(小計3)
陰茎部分切除術	1
鼠径/骨盤リンパ節郭清	2
後腹膜腫瘍の手術	(小計3)
後腹膜腫瘍摘出術	3
その他	(小計8)
総計	1084 手技 (994件)

2012年の手術件数は994件 (1084手技) で、前年度の1026件 (1109手技) よりやや減少した。近年の特徴的な傾向として、腎腫瘍に対する腎摘出術が減少し、腎部分切除術が増加している。また、昨年は少数であるが腹腔鏡下手術を施行した。全体的には、近年と同様、悪性腫瘍の治療、もしくはそれに関連した病態に対する手術で占められていた。

(文責 小林和博)

8. 皮膚科

悪性腫瘍	
悪性黒色腫	31
基底細胞癌	62
有棘細胞癌	42
ボーエン病	33
日光角化症	11
外陰パジェット病	9
皮膚付属器癌	7
悪性軟部腫瘍	3
悪性リンパ腫	21
転移性皮膚癌	4

血管肉腫	1
その他の悪性腫瘍	2
小計	226
良性腫瘍・その他	
母斑細胞母斑	129
上記以外の母斑	9
表皮嚢腫（粉瘤）	91
脂漏性角化症	42
脂肪腫	44
皮膚線維腫・軟線維腫	23
良性皮膚付属器腫瘍	23
血管腫	23
ケラトアカントーマ	6
石灰化上皮腫	30
慢性膿皮症	9
良性神経系腫瘍	10
その他	41
小計	480

前年と比べて悪性腫瘍手術が14件、良性疾患手術が50件増え、合計手術件数としては初めて700件を超えた。膨大な数の外来手術を効率的かつ安全に行っているのは、ひとえに手術室ならびに皮膚科外来のスタッフの尽力によるものであり、感謝の念に堪えない。（文責 竹之内辰也）

9. 眼科

水晶体再建術：眼内レンズを挿入する場合	182
水晶体再建術+緑内障流出路再建術	4
濾過手術を含む緑内障手術	3
眼瞼結膜手術（腫瘍摘出を含む）	18
前房穿刺（ウイルス疾患検索目的）	4
合計	211 件

2012年も1名体制であったが、2012年の手術件数は211件となり、前年の168件よりも飛躍的に増加した。これは、最新の手術機器への更新がすすみ、多くの難易度の高い症例を含めて、ひとりでも手術がより安全におこなえるようになったためと考えられた。（文責 原 浩昭）

10. 頭頸部外科

生検	
硬性鏡下喉頭下咽頭腫瘍生検	43
頸部腫瘍生検（リンパ節、甲状腺）	16
鼻副鼻腔腫瘍生検	3
口腔腫瘍生検	3

甲状腺生検	2
小計	67

甲状腺・副甲状腺

副甲状腺腫瘍摘出	2
甲状腺良性腫瘍半切	28
甲状腺癌（半切、D1郭清）	51
甲状腺癌（半切、側頸部郭清）	1
甲状腺癌（全摘）	5
甲状腺癌（全摘、頸部郭清）	5
小計	92

頸部

頸部郭清術のみ （原発操作に付属する頸部郭清）	17 (13)
小計	17

気管・喉頭

気管切開	13
気管孔閉鎖	8
気管孔形成	1
喉頭腫瘍切除術（LASER）	5
喉頭垂全摘（CHEP）	4
喉頭全摘	7
喉頭全摘、プロボックス	1
小計	39

口腔・口唇

口腔良性腫瘍切除	2
口腔癌切除	3
口腔癌切除、ネオバール再建	8
小計	13

咽頭

中咽頭良性腫瘍切除	1
中咽頭癌切除	1
咽頭生検	1
小計	3

鼻副鼻腔

鼻副鼻腔癌切除	4
小計	4

大唾液腺

耳下腺良性腫瘍	7
顎下腺腫瘍切除	1
小計	8

その他

プロボックスボイスプロテーゼ留置術	2
STAカテーテル留置	1
ポート抜去	1
頸部瘻孔修正	5
頸部膿瘍ドレナージ	1
鼻粘膜焼灼	1
歯原性嚢胞穿刺	1
頸部腫瘍切除	6
小計	18
合計	261

手術総数は2010年167件, 2011年236件, 2012年の261件と伸び率こそ鈍っているが順調な右肩上がりとなっている。

【甲状腺癌】

甲状腺症例は3年前と比較して手術件数が倍増していた。県内全域他科の先生方からご紹介が多くなってきたためである。技術面では, Inter Operative Nerve Monitoringにより反回神経温存に務め, Ligasure Small Jawの導入で低侵襲手術を目指している。

【機能温存手術】

当科の特色は喉頭機能温存手術である。喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, 喉頭亜全摘 (CHEP: Crico hyoid epiglott-pxy), プロボックス手術が当科で可能である。また, プロボックス手術患者会も当科主導で立ち上げて術後のQOL維持にも努めている。更に2013年春から言語聴覚士の加入により診療内容に深みが増している。

【総評】

手術以外にも, 頭頸部癌の放射線化学療法では口腔ケア, 胃瘻増設, オピオイドベースの疼痛管理, 放射性皮膚炎管理プログラムなどの多彩な支持療法により安定した治療を可能にしている。さらに, 県内主要施設, 県外施設との多施設共同研究も盛んに行っている。当科はこれからも新潟県頭頸部癌治療のリーダーとして更なる発展を続ける責務がある。

(文責 佐藤雄一郎)